

# 越後から来た僧

## 長貴さまと塚

## 匠探 嗟訪

32



長貴が埋葬されたと伝わる上人塚(野田地区今泉)

の基礎を築き、近隣の村むらからも慕って移り住む者も多かった」という伝承があります。

この話で興味がひかれるのは、越後・長福寺とのつながりです。同寺は1350年ごろに長

れより早い時期とされ、その系統、流れに違いがあることは確かです。

当時の寺院は、その地域の有力者の援助を得て、その者の菩提を弔うための氏寺(うじでら)的性格が強いとされます。そのことから下総と越後間で共通の支援者があつたと推測できます。

長貴については、「修行のため生きたまま墓穴に入り、亡くなったあと村びとは愛用の藤の木で作ったツエを墓に立てた。そのツエがやがて藤の大木となり村びとはこれを『さかさ藤』と呼んで長貴さまをしのんだという」伝承もあります。

こうした入定(にゆうじょう)修行が下総で流行したのには、およそ1700年前後からとみられます。長貴が円長寺を開いたとされる1337年ごろの伝承がそのまま続いていると無理に結びつけることはないので、この伝承は貴重なものです。

市内寺院の諸縁起もやはり1700年前後から作成されたものがほとんどとされ、その後に伝承が生まれたのでしよう。

市内には現在宗教法人として登録された寺院は80を超え、その由緒から「匠瑳の古寺」と呼ぶにふさわしいものがいくつかあります。

それらの寺には、建物や仏像などの由緒を江戸時代にまとめた縁起(えんぎ)があり、それが村びとに知られたことで伝承として現代でも語られています。

野手の円長(えんちよう)寺には、「長貴(ちようき)というえらいお坊さんが、越後国(現在の新潟県)長福寺で修行したのち野手に来て布教に努めた。上人は野手集落

智(ちようち)という僧によって現在の新潟県加茂市に開かれたといえます。長智に関する記録は市内横須賀・長徳(ちようとく)寺にも伝わり、この地域と越後・加茂の結びつきを示すものといえます。

どうして650年も前に、越後と下総とで往来があつたのでしょうか。これについての明確な答えは現時点で見つかっていません。しかし、市内の真言宗寺院の歴史的な広まり方を調べると西光寺・見徳寺など中央地区の寺院が1420年代に中興開基されたとするのに対し、この地域はそ